

■活動レポート

■事業紹介

みんなのためそう！体験教室

佐々木勝宏（主任専門学芸員）



当館では教育普及活動の一環として、解説員による体験参加型講座『体験教室～みんなのためそう！～』を毎週日曜日の午後1時から参加費無料で実施しています。

この講座は、来館者の皆さまに博物館に展示してある資料などについて興味関心を深めていただくきっかけづくりになればと企画され、20年以上にわたり継続して行われています。定員は安全面を考慮し、目の行き届く範囲の20名と定めておりますが、内容によっては若干オーバーしても対応しております。また、超過人数が多い場合には抽選を行わせていただく場合もあります。

体験教室では、地質・生物・文化財科学・考古・歴史・民俗の6部門で構成される当館の総合博物館としての特色と機能をいかした工作や実験など、様々なプログラムを提供できるよう努めています。

今年度は51回のプログラムを計画し、館内の実技室や体験学習室などで行っています〔※9～11月のプログラムは本紙8ページをご参照ください〕。内容は小学校低学年のお子さんができるものと考えています。そのため、未就学のお子さまにつきましては保護者同伴をお願いしております。若干難しめのものには、プログラム表に★印の注記をつけてお知らせしています。保護者の方々と一緒に製作されるお子さんもうらっしゃいます。ほぼ毎回お爺ちゃんとお孫さんが仲良く、真摯に取り組まれる姿など微笑ましい光景も見られます。

岩石や化石に親しむための地質系プログラムは、「化石のレプリカづくり」と光の色がどんどん変化する「偏光フィルターの万華鏡」づくりの2種類。昔ながらの「万華鏡」づくりとあわせて参加し、その違いを楽しむこともできます。



偏光フィルターの万華鏡〔今年度は9/30〕

古代人の技術を体感できる考古系プログラムは、こはくの玉や勾玉のネックレス、土器や土偶づくりに加え、火おこし体験の5種類を用意しています。



火おこし〔今年度は9/23〕

拓本の体験「でるでるうきでる！昔のコピー」に、「ちょんまげかつら」や石を削って作る本格的な「はんこづくり」。「和製本のアルバムづくり」や「切り紙あそび」と、歴史系も5種類あります。



切り紙あそび～紋切り～〔今年度は9/16〕

正月や節供などの年中行事を体感する民俗系プログラムは7種類。小正月を彩る「みずきだんご」や、節分の豆まきに欠かせない鬼の面づくり、節供にちなんだ「おひなさま」やカラクリ仕掛けの「こいのぼり」づくりにチャレンジできます。

り」づくりにチャレンジできます。

ちょっと昔の暮らしや遊びを体感するプログラムは17種類。昔ながらの脱穀体験、まゆ玉の干支かざり（今年度はネズミ）やロウソク、すすきのみみずくづくりは女の子に大人気です。また、今年度は男の子に人気の遊具・強風でも簡単にあがる「凧づくり」のプログラムを加えました。



たこづくり〔今年度は12/2〕

自然にふれる生物系のプログラムは6種類。まゆ玉でつくるアツモリソウ、トンボや本物そっくりに動くしゃくとり虫づくりのほか、草花を用いた「そめもの」や「カードづくり」なども楽しめます。年間プログラム中の一番人気は、「松ぼっくりのクリスマスツリー」づくりでしょうか。お子さんたちはもちろんのこと、保護者の方々も、すぐに夢中になってしまいます。



葉っぱのカードづくり〔今年度は11/4〕

実験を中心とする文化財科学系プログラムは3種類です。気化熱を利用した氷の結晶を観察したり、鉄粉を用いたオリジナルの使い捨てカイロやスライムづくりにチャレンジできます。

また、51回のうち4回は外部講師をお招きして実施するプログラムもあります。「紙でっぽう」、「竹とんぼ」、「ごんげんさまのカスタネット」、「木の皮でいろいろ工作」が組まれています。どうぞ、ご家族でお気軽にご参加ください。

■活動レポート

■学芸員室より むかしの暮らしを知る

熊谷 道仁（学芸調査員）

6月下旬から8月にかけて、館内は一年のうちで最もにぎやかになります。小中学生の訪問がグンと増えるからです。訪問の目的は、大まかに分けて次の3つに絞られるようです。①「総合的な学習の時間」の授業②遠足の中での学習③職場体験。①と②に関しては、学芸員や解説員から説明をうける団体と自由に見学する団体とに分かれての学習となります。その学習の中で最近要望が増えてきているもののなかに「むかしの暮らしを知る」が挙げられます。「むかしの暮らし」と聞けば多くの方は、江戸時代や戦前の庶民の暮らし、土着の信仰などが学習対象となるのだろうと想像するのでしょうか、平成も十九を数えるようになると、そうばかりではありません。昭和40

年代から50年代の暮らしも「むかしの暮らし」に該当します。昭和40年から60年頃が一つの歴史のカテゴリーを形成しているのですから驚きです。その時代に子ども期を過ごした人は、もうそれだけで小学生に講義ができるといったあんばいです。

近ごろの小中学生は、昭和の製品に、目新しさやデザインの斬新さを感じるようです。そういえば、昭和の菓子や商品が復刻版の名のもとに売られ、売り上げを伸ばしています。

「ちゃぶ台」「ダイヤル式電話」「白黒テレビ」「ガス釜」・・・今およそ30歳以上の方（昭和50年生まれ以前の方）なら祖父母の実家など、どこかで目にしていないものでしょう。それらは重要文化財とまではいきませんが、博物館では、昭和の製品を多く収蔵しており、それがそのまま現在の小学生の教材になっているのです。

「おじさん！（私のことでしょう）「ちゃ

ぶ台返し”したい!!」、私「えっ!」、そうなのです。小学校の児童の多くがいわゆる“ちゃぶ台返し”を知っていたのです!強い要望に押し切られる形で、私は畳の上にちゃぶ台を設置して、家族8人が押し合い圧し合いしながらご飯を食べているとの設定にして、父がいきなり「ばかやろー!」と怒鳴ってちゃぶ台をひっくり返す場面を指導(!?)しました。ひっくり返すときのその小学生の言葉は「うりゃー」でした。一体どこで覚えたんでしょうね?

後で私が反省したことを一つ。「ちゃぶ台があるからといって、どこの親父もちゃぶ台をひっくり返していたわけではありませんよ・・・。」

大事な説明を、私は忘れていました。



■解説員室より 団体のお客様と

佐藤 優子（解説員）

私たち解説員の行っている業務の一つに、団体誘導があります。団体誘導は、学校団体や20名以上の団体のお客様に行うものです。1階エントランスホールで兜跋毘沙門天立像をご覧いただきながらオリエンテーションを行い、2階の総合展示室入口まで、解説を交えながらご案内いたします。

そのご案内をする途中で、お客様方が決まって「わあ〜」と歓声を上げる箇所がいくつかあります。

まずは階段の途中、全長22メートルにも及ぶマメンキサウルスの全身骨格です。子どもたちはもちろん大人の方も、限界まで顔を上げてご覧になります。

次のポイントは、階段を上りきった2階エントランスホールの一面の窓から望む岩

手山です。ほとんどのお客様が、その絶景に目を奪われ、足を止めてご覧になります。また、残念ながら天気にも恵まれず岩手山を眺めることができなかったお客様は、とても落胆されるのですが「天気のいい日に必ずまた来なくちゃいけないわね。」と仰ってくださる方もいらっしゃいます。

そして最後は、パレオパラドキシアやオオツノジカ、ハナイズミモリウシといった大きな動物たちの全身骨格が目飛び込んでくる、総合展示室の入口です。目を輝かせながら夢中になっていらっしゃるお客様方全員に展示室へとお入りいただいたら、団体誘導はここでおしまいです。

さて、私が初めてこの団体誘導と展示解説をさせていただいたのは、「研修中」の名札が外れたばかりのおよそ3ヶ月前のことです。お客様は、県内の小学生数名様。緊張が伝わってしまったのでしょうか、子どもたちは硬い表情でまっすぐ一列に並んだ



まま静かに私の後をついてきます。しかし、階段を上りながら必死に解説をしようと、徐々に反応が大きくなっていき、展示室で解説を行う頃には笑顔が溢れ、質問も沢山飛び出してきました。ご案内をする展示室までの道のりは、お客様と私たちの距離を縮める要素が溢れており、階段を一段一段上るたびにお客様と感動を共にしている気持ちになれるのです。

ちなみにご案内後は、ご希望でしたら引き続き展示解説も承っております。大勢の仲間や友達と理解や感動を分かち合える...そんな博物館の楽しみ方はいかがですか?